

「第51回衆議院議員総選挙・2026模擬総選挙」投票結果 (2026年2月16日(10:00時点))

	自由民主 党	中道改革 連合	日本維新 の会	国民民主 党	参政党	日本共産 党	れいわ新 選組	減税日本・ゆ うごく連合	日本保守 党	社会民主 党	チームみ らい	安楽死制度を 考える会	有効票小計	白票・ 無効	総投票数
実際結果 ※1	21,026,139	10,438,801	4,943,330	5,572,951	4,260,620	2,519,807	1,672,499	814,874	1,455,563	728,602	3,813,749	13,014	57,259,949		
実際割合(青・斜線)	36.7%	18.2%	8.6%	9.7%	7.4%	4.4%	2.9%	1.4%	2.5%	1.3%	6.7%	0.0%			
模擬全体 ※2	948	178	230	338	152	73	49	21	32	29	296	0	2,346	25	2,371
模擬割合(黄色)	40.4%	7.6%	9.8%	14.4%	6.5%	3.1%	2.1%	0.9%	1.4%	1.2%	12.6%	0.0%			

※1：各ブロックの比例区の得票数の合計(総務省「令和8年2月8日執行 衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査速報資料【衆議院議員総選挙結果調】」 <https://www.soumu.go.jp/senkyo/51syusokuhou/>)

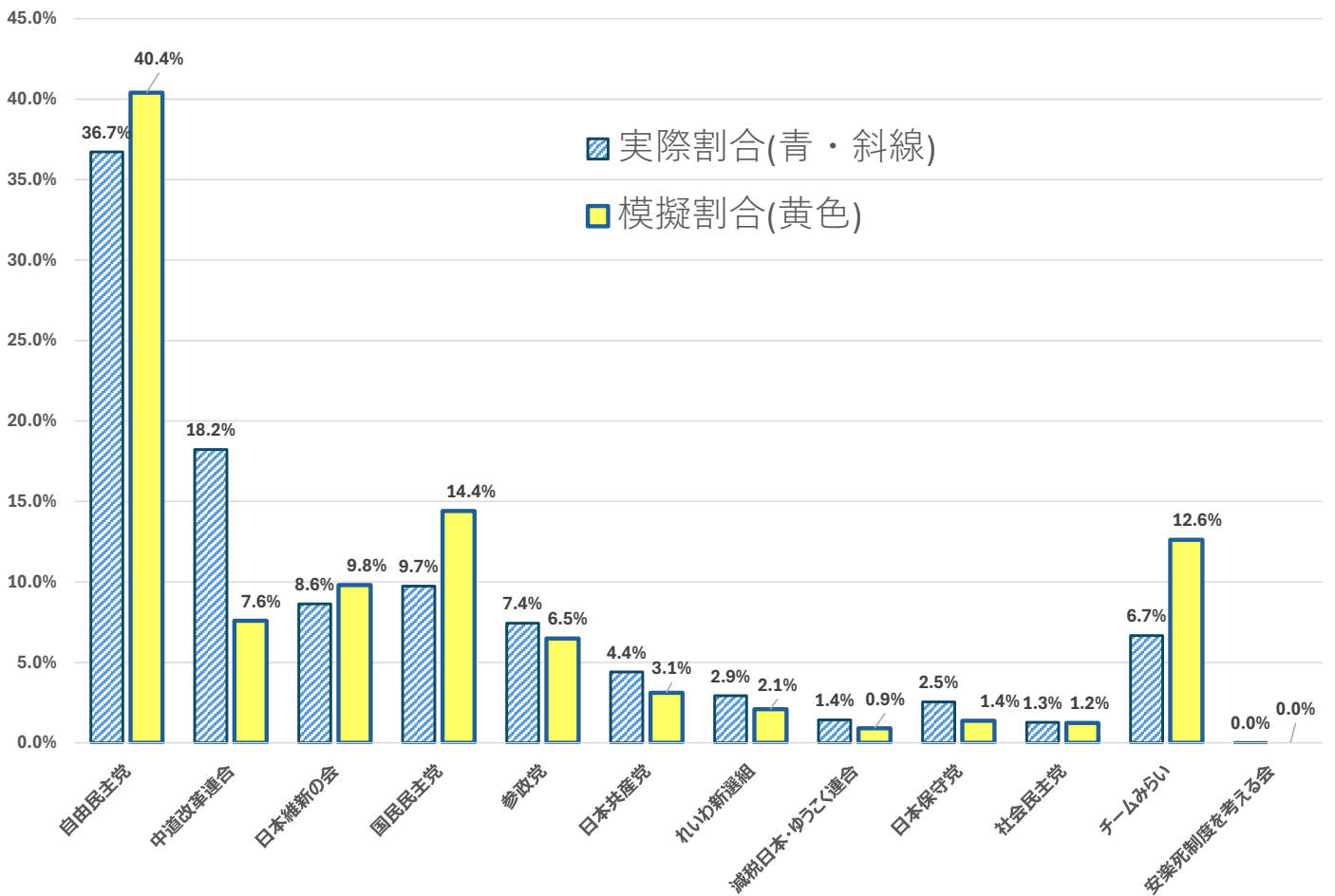
※2：2026年2月16日午前10時時点で報告のあった学校からの集計数

【第51回衆議院議員総選挙・2026模擬総選挙 参加内訳】

・中学校=9校 ・高校=9校 ・大学=0校 ・地域=0か所 ・合計18校/か所

※中高一貫校で中学校・高等部それぞれで実施していた場合は、個別に計上

2026総選挙 比較(実際/模擬)



※第51回衆院選を総括して～コメント概要(全文は別紙参照)

*なぜ自民が支持を集め、なぜ中道が支持を集められなかったのか

模擬で自民党に投票した意見を見ると、中市首相のキャラクターで選んだというよりも政策(ポートマッチを使うなど)で選んだという意見が多かった。中道の知名度不足もあろうが、外交やエネルギー政策、財政問題など、それぞれ大きなテーマについてポートマッチなどで選んだ傾向がある。

*全体的に

模擬の投票した傾向としては左右の極端な政策を嫌い、穏健保守といった傾向が強い。与野党全体に「対決より解決」を求めているといえると思われる。

模擬で投票した中にはyoutubeの切り抜き動画やSNSのファクトチェックについての心配する声もあった。模擬選挙推



問い合わせ：

模擬選挙推進ネットワーク
mogisenkyojapan@gmail.com
<http://www.mogisenkyo.com>
090-1991-7458(林)

【生徒】感想（一部抜粋）

- ・選挙は難しいと思っていたけど、自分の考えに近い政党に1票をいれることの大切さを学んだ。
- ・模擬投票で興味を持ったので、実際の投票所に初めて親と一緒にいった。
- ・模擬投票を行ったので、家族で政策について考える機会を持つことができた。
- ・投票は自分たちの未来を決める大切なことだと分かったので、実際の投票率が低いのが許せない。大人としてしっかり責任を果たしてもらいたい。
- ・選挙の仕組みを3年生で学習するらしいので楽しみ。
- ・投票するときに手が震えてしまった。もっと事前に勉強してから投票すればよかった。
- ・親と選挙のことについて話したことが面白かった。次もやってみたい。
- ・自分なりに政策について調べたけど難しかった。友達と考えが違ったので大丈夫か心配。
- ・模擬投票が面白かった。実際の投票所で投票所来場カードをもらえて嬉しかった。もっと集めたい。
- ・公民の授業が楽しみになった。
- ・模擬投票で政策の違いを比べることが面白かった。すべての項目が同じ考えにならないので難しく感じた。
- ・早く本当の選挙をやってみたい。投票に行かない人の意味が分からない。自分は絶対行く。
- ・夏のとき（2025 参院選）と選んだ政党が変わっていて、自分でも驚いた。選挙ごとに公約や方針も違うから、未来で投票することがあったときにはしっかりと調べたい。
- ・選挙は適当に選ぶのではなく、各政党の意見を見て投票しないといけないと感じました。
- ・あまり興味がなかった政治や選挙について考えてみて、政党の考えや意見に共感したりしなかったりしながら、自分に一番合った政党を選ぶのが難しかったけれど、いろいろなことをしれて面白かったし、楽しかったです。たぶん、3年後くらいに選挙をすることになるから、その時は今回の経験を生かしてしっかり調べて、自分に一番の政党を選べるようにしたいです。
- ・夏に行ったもの（2025 参院選）は正直政党が言っていることがあまり理解が追いつかないものが多く、自分の「票を入れたい」という気持ちや考えが薄かったと思った。今回はこれまで学習してきたので理解ができるものが増え、自分の意思が芽生えたと思った。
- ・前回（2025 参院選）よりも政策などを見比べて、より深く考えることができた。今回は、いま自分に関係あるものだけを調べて投票したが、今回は今だけでなくこれからの未来も同時に調べて投票することができた。
- ・参議院議員選挙のときは減税はした方がいいし、現金交付などもどんどんやった方がいいと思っていたが、今回は公民を学んで、一概にそうとは言えないことが分かって、それをすることによってどうなるか慎重に考えることができた。
- ・夏のとき（2025 参院選）はあまり政党や政治に興味はなかったけれど、今回は現実でも選挙をやっていたり社会の授業で学習していたため、一気に興味が出てきました。今回の学習を3年後にしっかり生かしていきたいと思いました。
- ・今回は今までと違って自分にとっては全党決めてに欠けていたので、改めて選挙の難しさを感じた。
- ・自分と考えが全く同じ政党はいないので自分の考えとよりあった政党を見つけるのが大事。
- ・思ったより投票率が低い！
- ・半分以下の中1で一番ってちょっと怖いです。高校生の方は受験だったり難しいし、先輩が言っていた雪で帰ったのでは？など、今回の選挙やっぱ良くないなあ感も出た。
- ・選挙は、ある政党が本気で政権を取ることを願って、心の底から思いを込めて投票する人と、特に政治について詳しくなく、何となくで投票する人がいるが、どちらも「1票」としてカウントされる。なので、自分も「何となく」で投票するのではなくて、ちゃんと討論会とかを見て、各政党の主張を理解し、なぜその政策を主張して、なぜ他の党はそれを批判するのかを知り、メリットとデメリットを考えた上で投票先を決めるべきだと思った。
- ・もちろん人や場所の関係で難しいのは分かっているが、期日前投票を充実させてほしい。
- ・外国籍の生徒より、「選挙の争点に『外国人対策』という項目が加わり、自分是对策される側なのだなあ」と痛感した

【教員】今後、実際の選挙をテーマにした模擬選挙を実施する上での課題、必要なこと等

- ・できるだけリアルにしたいので、各政党のポスターがあるとよい。
- ・フェイク情報が溢れているので、見抜く力が必要。また、メディアの情報を得ながらも、メディアに踊らされない力も必要ではないか(例えば、世論調査で高市自民が優勢となっているから自民に入れようみたいなスタンスにならないようにしたい)
- ・文科省から通知が来ている「学校における主権者教育を実施する際の留意点について」をしっかりと確認すること。
- ・政治的中立性の確保
- ・余裕のある日程。選挙を重ねない(府知事選)。
- ・授業時間の確保
- ・課題:事前学習に取り組むことが出来る時間が短すぎる事・事前学習には概ね取り組んでいるが、投票行動に結びつかないこと
- ・選挙に限らず政治は、自分たちの生活に直結していることだという実感を持てるようになること。100%考え方が一致する候補者や政党がないのは当たり前であるということ。ポートマッチはあくまでの一つのツールであるということ。どのような社会で生きていきたいかを考えられるような視点。自分は困っていないではなく、困っている人のことや自分とは距離感の遠い層の人たち(例えば中学生でいえば高齢者やLGBTQの人など)も想像できるようになること。民主主義は、時間がかかりめんどくさい制度であること。民主主義は多数決ではないこと。少数派の意見も尊重されることの大切さ。

【教員】模擬選挙以外で取り組まれている政治教育、シティズンシップ教育等の実践例

- ・憲法改正や原発再稼働など、国論を二分するようなテーマでディベートを実施。
- ・憲法の内容がいかに関わっているかを学習したり、憲法のどの条文が素敵かを選んでみたり、昭和史の学習から現代政治の橋渡しをしながら平和をどのように守れるのかを考えたり、様々取り組んでおります。
- ・地域の社会課題を探究する、など
- ・バズる政治系動画制作
- ・選管の出前授業、(政党名を伏せて)政策をグループで選ぶワーク。
- ・財政を組む、請願を行う

【教員】学校現場における主権者教育／シティズンシップ教育の課題、必要なこと等

- ・社会科、地歴・公民科に関わらず、ホームルームや他教科でも取り組んでいく必要がある。また、選挙前だけでなく、日常的に政治や選挙について扱う必要がある。
- ・子どもたちが「いかに自分ごと」として捉えられるかが課題。オーセンティックな課題設定が重要になるのではないかと。また、「自分くらいやらなくても…」と思わせない「世の中が変わるんだ」という実体験をさせたい。
- ・生徒会活動の活性化、地域連携
- ・準備の大変さ
- ・実際の政治を扱うノウハウの教員同士の共有
- ・準備時間、授業時間、人手。
- ・さらに認知度のアップと、年間学校計画を創る
- ・管理職や教職員の理解と協力、教科内での理解と協力、保護者への丁寧な説明
- ・日常から、自分が尊重されていると実感できるような体験を積み重ねていけること。人権と思いやりは違うものであると認識できるようになること。自分の考えを持つだけでなく、他者(特に自分と違う考えを持っている人)の考えも「聴く」ことができるようになること。(論破がかっこいいという価値観に揺さぶりをかけたいですし、「正論」も冷笑せずには受け止められるようになってほしいです。また、否定と批判は違うこと。特に権力者や多数者に対して「批判」する視点を持つことは大切であることを学び合いたいです。)

第51回衆議院議員総選挙における模擬選挙を総括して

模擬選挙推進ネットワーク／西村高志

1. なぜ自民が支持を集めたのか

NHK が公開している政党支持率のなかに年代別政党支持率もある。

(<https://news.web.nhk/senkyo/shijiritsu/>)

このデータは投票日直前のデータを集めたものになり、それによると自民党全体の支持率は 35.7%で実際の比例区の自民党得票率は 36.7%とほぼ一致している。そのなかで 18～29 歳の若者層に限ると、NHK の場合 31.8%であったのに対し、模擬の結果では 40.4%とより自民党への支持が強まった結果になった。一方の模擬で自民党に投票した意見を見ると、意外にも高市首相のキャラクターで選んだというよりも政策（ボートマッチを使うなど）で選んだという意見が多かった。

2 なぜ中道が支持を集められなかったのか

中道が今回大惨敗した理由として、そもそも政策がことなる旧立憲と旧公明の合体が選挙互助会としてとらえられたことや、急な結成のため知名度不足と言われて、特に若年層への支持が欠いているとされた。確かに実際の投票結果では 18.2%に対して、模擬結果では 7.6%と実際の結果のさらに半分以下の支持率だから、なかなか若者に刺さらなかったとはいえる。しかし、自民支持の理由に政策を挙げている意見が多かったことを踏まえると、知名度不足よりも、外交やエネルギー政策、財政問題など今回の選挙の前に隠れてしまったもののそれぞれ大きなテーマについてボートマッチなどで選ばれた結果であろう。

3. そのほかの政党について

国民民主や維新といった保守系政党が若者の世論調査よりもつよい傾向がある一方、参政・保守になると逆に支持が広がらなかった。また、共産・れいわ・社民といった左派系は実際とほぼ同じか若干下回るくらいであった。左右という観点でみた場合、今回の模擬選挙の投票した傾向としては左右の極端な政策を嫌い、穏健保守といった傾向が強い。そして、そうした対立構造から一歩引いたスタンスであったチームみらいがかなり票数を集めているということ考えると、与野党全体に「対決より解決」を求めているといえると思われる。

全体を通して

物価高対策や経済という点もさることながら、外交やエネルギー政策、また大きな影に隠れてしまった夫婦別姓などなど多岐にわたって政策ごとでどう選ぶか自分の関心分野でできるボートマッチの利用はますます増えていくだろうと思う一方、模擬で投票した中には youtube の切り抜き動画や SNS のファクトチェックについての心配する声もあった。選挙ドットコム分析でも、選挙期間中の youtube 動画を分析したところ、自民党にはポジティブ印象の動画が多い一方、中道にはネガティブ動画が多く、昨年夏の参院選で躍進を遂げた国民・参政はそもそもの動画数が少なくなったという調査結果がでている。今後は模擬選挙推進ネットワークとして、たとえばボートマッチにおいても、これまでのように、複数の出典（新聞系・サードパーティー）を用意する必要がある。